



第 4 号
昭和61年12月1日
阿品台地区
コミュニティをすすめる会
阿品台公民館内
(TEL 39-4338)
阿品台人口世帯数
10月31日現在
人口 男5,045人
10,276人 女5,231人
世帯数 2,867 世帯

将来の阿品台の展望

連合町内会長 太田 佳宏

仕事の都合上、広島市から阿品に居を移して早いもので三〇年が過ぎました。現在の廿日市町が

(町村合併) 出来た時でもありました。その当時は海あり山あり人家のあまりない静かな農村地帯でしたが、昭和四〇年代後半急激な開発が進み現在のような住宅中心の町が出来ました。阿品台団地もその時に出来たものです。こんな山中に誰が住むのかと思いましたが出来上った団地を見て素晴らしい景観と県の造成ならではと思える諸設備に感心したものです。当地も早いもので一〇年をむかえます。その間諸先輩方の街づくりに参加させて戴き種々勉強させて頂きました。当時県営第一町内会、二丁目町内会(一丁目・三丁目)

だった町内会も現在では二四町内会に発展し連合町内会のイベントも春夏秋冬とふれあいをもとめて皆様方の参加があり年々盛大になって来しました。そこで今後一層の参加をいただき各イベントが定着して郷土文化としていついつまでも開催されますようお願い致します。さて街の展望についてですが、現在廿日市町は六三年三月を目標に市制移行をするための街づくり審議が行なわれております。阿品台は廿日市町の最西端に位置し人口約二〇三〇〇人(廿日市町五分一強)が居住しています。周辺を見回しますと大野町に、宮内に、佐伯町にと新住宅団地が造成中です。今後人口も急増するでしょう。その為に教育・生活・環境衛生・交通問題は特に大変になっていくと思われれます。以前大都市が周辺に人口を分散して中間生活都市を開

発してきましたが、四〇年以上過ぎた現在でもまだ満足出来る都市はないようです。特に生活のための商業地区、通勤通学のための交通手段

は大変だと思えます。町行政のアンケート調査によると当地区居住者の中には永年に亘り各方面の専門職の方々が多数お住みのように見受けられます。そこで各専門分野の問題検討会をつくり御意見を聴かせ願えればと思えますが? 公民館を中心にしたコミュニティを推進していく為に最適ではないでしょうか、よろしくお願い致します。

町内会長も各問題点を検討して町行政と綿密な連絡を持ちながら住民中心の行政が行なわれますように邁進していきたいと思えます。全住民の参加のもと自分達の住む街が自分達の手で豊かで明るく住みよい街に、またそう思える街に出来たらどんなに素晴らしいことでしょう。

今後共皆様方の御指導と御支援をお願い致します。



町会議員 山本 治喜

一、子供達のふるさとづくり

大人にとっては別の所に故郷をもっております。しかし子供達にとっては、ここ阿品台が自然にふるさととなります。そこで大人である私達が色々と工夫をして、知恵を出しあって良いふるさととなるように努力することが、大事なことと思えます。将来は今具体的に実行していることが、積み上げられて子供達の為に良いふるさととなるものと信じ、更に努力していかねばなりません。

二、周辺と共にくらし良い町にな

ろう

私が住みはじめた頃は、阿品台は無医村であり、公民館も集会所もなく、銀行も郵便局も専門店もなく、わずかにスーパー(100㎡)のみでした。現在は概ね利便施設も整い、一応生活に困ることは少くなりました。しかしながら、子細に阿品台を見ますと、未だ施設にしても欲しいものが沢山あります。その他に心の問題と申しましょうか、ソフト面と申しましょうか、住民として、明るく楽しく、伸び伸びと気兼ねなく、生活を楽しめるような町になりたいと念じております。と共にそうなるだろうと信じております。

三、交通至便な町に

一応バイパスに接続し、マイカーでも、バスでも出られるように道路はできています。電車も阿品・田尻に停留所があります。バスは一日に三路線で九三往復も走っています。しかしこれでもまだ交通至便な町とは言えません。これからどうしたら良いか、皆様の思いを結集して、将来の町づくりにかかせない駅づ

くりこそが、ひとつの仕事と考えております。バスが出入りできる駅、通勤・通学に更に便利にしたいものであります。

昔と今日の郵便局

廿日市ニュータウン郵便局

細井三千男

風光明媚な広大な地域、その面積も市民球場のおよそ五八倍という約一三七万平方メートルの地域に開局させていただき三年半が経過しました。本紙「ふれあい」をおかりしまして厚くお礼を申し上げます。

さて、私共、職場のことを申し上げて恐縮ですが最近のアンケート等によりますと、ぜひたくを言うわけではないですが私たち年輩者には昔の郵便局の方がよかったという気がしてならない。特に昔は特定局が家族ぐるみでやっていて大変便利であった。お年寄が窓口へ来れば「おじいちゃん、おばあちゃんお元気かいですね」といった挨拶を必ず耳にし、何でもしてくれたもんだ。たまには「上ってお茶でもどうぞ」と声をかけ

れ気軽にご利用していただける郵便局として皆様にお役に立つよう懸命の努力をしてまいる所存でございます。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

たりしてくれた。時代が変り、窓口も昔と今では忙しさが違うので、そのようなサービスを郵便局に望むのは無理だろう。今頃は取扱も事務的、いつてみればいんぎん無礼になってきたように私は思えてならない。建物の前に立つと、入口の自動ドアがすっと開く。「いらっしゃいませ」の音がする。それも自動的にテープを通じて声が出る仕掛けと気がつく。窓口の前に立つて「保険はどこですか」とたずねると、「〇〇番どうぞ」という声がかえってくる。〇〇のところへ行くと「代書は出来ません」と冷たい。「眼鏡を忘れて来たので書いてくださいよ」と頼むと「あちらに老眼鏡があります」といつて暖かみがほとんど感じられない。昔の郵便局だったら、年金証書と印鑑を出せば「はい〇〇円お金をつけてお帰りくださいよ」といった声が必ずどなたからかかけられた。窓口で世間話でもする楽しみがあったけれどね。以上の話を昨今耳にしますが、これからは既成概念、固定観念にとらわれず柔軟に私共職員一同毎日明るい窓口をモットーにお客様に親しま



阿品台に住んで

ひとこと

○お父さん、お母さん、よかったね。美しい空、海、山、小鳥の声、おいしい空気。私達僕達の街、きれいな街を汚さない様に皆仲良し、阿品台バンザイ。

G町内

○盆踊り大会、秋祭り等、年々盛大になり子供も大人も大変喜んでいきます。私も阿品台に来て三年目、美しい街、景観美あふるる海、山と街並木、朝のひととき、夕辺のひととき、海の景色を映え変えて暮れる眼下の宮島水道、赤い大鳥居が浮かぶながめの良いこの阿品台を子供、孫達の為により良い街づくりに懸命にがんばりたいものであります。

G町内 上西

○阿品台公園、汚さない様皆さん、努力して下さい。お願い致します。小さなお宮さんがあればいいなあ……。

G町内 子供

○皆、美しい阿品台、道路を汚さないでね。

G町内 一住民

古稀老人のねがい

阿品台四丁目 栗林 保次

去る八月二十一日公民館ふれあい学級生は、江田島術科学校と呉港で自衛艦の見学をしました。

一日を有意義に過ごしましたが、帰路の貸切りバスの中では、館長さんお得意の料理講義や藤岡さんの民謡、美声披露があり和やかムードで一杯でした、私もチャンスがあったら見学の所懐などお話しできればと思っておりましたが堅苦しい話をして折角のムードが壊れては申し訳ないの思いとどまりました。

今回公民館だよりで投稿募集がありましたので古稀老人の願いを申し上げ溜っていた胸のつかえを取り除かせて頂こうというわけです。

諸その堅苦しいお話しと言うのをしばらく我慢してお聴き下さい。江田島術科学校には、教育参考館があつて国の為に身命をなげうって殉職や戦死をされた方々の遺言、遺品が沢山陳列されてあります。館内を拝観して心を打たれない人はまずないと存じます。そのなかで

今回私は佐久間艇長についての考えを皆様にお話ししたいのです。

佐久間艇長については御年配の人なら誰でもよく知っておられますが最近手許の水交誌(六十一年六月号)によれば駐日英国海軍武官のスピーチで英国では今日でも佐久間艇長が本物の海軍軍人、真の紳士として高い尊敬を受けておられるとのことです。これに比べて我が日本ではどうでしょう。昔は小学生でも知っていた艇長の偉業が今日若い人達は名前も知らない始末です。外国で語り継がれていることが日本ではいつの間にか失われているのでは情ない気がします。

「古稀老人のねがい」は「心から国の為を思って身命を捧げた人達のことを忘れない」このことが現在の政治や教育の面で少しボヤけているような気がしてなりません。年寄りの冷や水、取越し苦労でしょうか。あまり深追いするとポイントがそれるのでこの辺で皆さんへの訴えを終わります。

阿品台五丁目

の紹介

町内会長 蜂谷 昭

五丁目は昨年の四月に住宅・都市整備公団の分譲住宅としてうぶ声をあげ、阿品台二三番目の町内会として仲間入りしたホヤホヤの町です。現在の戸数は六十戸ですが、第三・四次入居を募集していきますので来年は大世帯になると思っています。

「明かるく住みよい町づくり」をモットーに、今年は町内をあげて秋祭りを挙行し、団結と親睦を図りました。また子供会も夏の一泊キャンプ、冬のクリスマス会、毎月幼児公園の清掃と、健全育成に力を入れています。

児童公園が集会所の隣りに工事されており、子供達の遊び場、町内住民の憩いの場として、完成を待ち望んでいるところです。散歩のついでに是非一度お立寄り下さい。

阿品台音頭

作詩 山本 志朗
作曲 津守 秀明
編曲 内田 達仁
補作 田尻 達仁

一 ハー 春はヨー

花咲き初むる阿品台

庭の梅には うぐいす鳴いて

空にや つばめが舞い遊び

南 宮島 陽に映える

ドン ドン ドドント

アジナダーイ

二 ハー 夏はヨー

若葉にもゆる阿品台

光 緑に 草花開き

海にや ヨットが白帆はり

丘は 太鼓がなりひびく

ドン ドン ドドント

アジナダーイ

三 ハー 秋はヨー

紅葉にしきの阿品台

スポーツ 文化のわきそい

町にや みこしが跳びまわり

菊の香りも ふくいくと

ドン ドン ドドント

アジナダーイ

四 ハー 冬はヨー

ふれあい すすむ阿品台

クラブや つどい いきいきと

道にや 笑顔が語り合い

住み良い ふるさと育ちゆく

ドン ドン ドドント

アジナダーイ

五 ハー 町はヨー

かたい ちぎりの阿品台

老いも 若きも手とりあつて

今日の喜び分かちあい

明日は希望の日が昇る

ドン ドン ドドント

アジナダーイ

阿品台音頭の

作詩について

一番苦心をしたことは、「阿品台の皆様が喜んで歌い、踊り、親しんで戴けるか、誰もがこの音頭を愛してくれるだろうか」と言うことでした。このために、なるべく平易なことをばを使い、具体的な名前を詩の中にできるだけ入れようと努めました。

拙い作詩ですが、幸いに立派な曲をつけて戴きましたので、感謝しています。又、最高の振付けが完成したとのことで、阿品台のみんなの歌になれば望外の喜びであります。



俳句

○宮島の 鳥居眺めて 犬散歩
○赤い鳥居 ながめて朝の

すがすがし
○朝靄が 晴れて広島 海光る
阿品ハイッ 森川 技智

短歌

○瀬戸内に映える大鳥居
美しき阿品に住みし

喜びひとしお今日この頃

○小鳥さえずる北里に

青葉若葉のにはいおぼ

我がほゝなでる朝の刻

G 町内

○去り難き故郷を背にうつろいて

やと馴んだ阿品の丘に

○さざ波に紅映ゆる大鳥居

潮騒はるか阿品の我が家

五丁目 栄アキ

○みだれ打つ太鼓の妙技に招かれし

老いなど思はず拍手を送る

○阿品台の敬老会にいただきし

弁当前に病む友思ふ

○ふじおかの広場より見る瀬戸の海

水脈ひく船を飽かず眺むる

一丁目 山本ハツ子

編集後記

「ふれあい」第四号をお届けします。

公民館だによりにより、原稿投稿を募集をしたところ皆様から沢山の立派な原稿を頂き誠に有難う御座居ました。編集にあたり、紙面の関係でどうしても全部掲載する事が出来なかつた事をお詫び申し上げます。

次号のテーマは「阿品台の将来像、どんな町に」としますのでたくさんの方の投稿をお待ちしております。原稿締切は二月十五日です。

